

平成30年度(第II期)教育文化学部国際交流等学術研究交流基金の助成事業

## 実施報告書

平成31年3月25日

所属・職名：学校教育課程 英語・理数教育講座 准教授  
氏 名：PATERSON, Adrian David

### ○事業概要 (project outline)

本申請のワイカト大学春季留学プログラムは、ニュージーランド国立ワイカト大学 (The University of Waikato) のパスウェイズ・カレッジ (Pathways College) で実施される短期プログラムである。3週間の一般英語コース (General English)、ホームステイ、アカデミック講義、教室外のアクティビティにより、語学力の向上と異文化間コミュニケーションの機会を確保し、学生が主体的に学びを広げ深めることができるように計画している。また、事前および事後指導も加え、有意義なプログラムとなるよう努める。

### ○事業の実施により期待できる効果と意義 (Expected effects and significance of project implementation)

英語科教員を目指す学生にとって、豊かな専門能力を身につける基盤となる英語力を向上させ、異文化を体験することは非常に重要である。より充実した英語科教員養成を目的とすると共に、学生が今後自主的に留学を目指すよう下地を作る海外短期滞在交流プログラムである。本プログラム参加により、学生は語学力を向上させ、異文化交流により広い視野を身につけるものと思われる。

### ○事業期間全般にわたる感想と課題 (Impressions and issues over the business period)

(以下は参加学生の感想)

佐藤栞夏 (1518105)

私は海外に行くのは今回で2度目だったが、生徒だけで海外に行くのは初めてだった。行く前の準備や、ニュージーランドでの生活についてたくさん不安はあったものの、それらを解決しようと努力することや、自分から積極的に行動する事の大切を学ぶことができた。

ありがたいことにホストファミリーの方々に恵まれて、たくさんの経験をすることができた。生活を始めて、最初の3日間は緊張してしまい、話しかけられても短い応答しかできず、あまり自分から話しかけることもできずにいた。しかし、何度も話すチャンスをくれて、私の拙い英語でもしっかりと最後まで聞いて頂き、徐々に話すことができるようになったと感じる。またホストファミリーの友だちと一緒に夕食を食べたときに、ニュージーランドの社会問題について話したり、学校の先生として働いている方と教育について話したりしたことは、私にとって英語力向上につながっただけでなく、日本でもいかせるようなことばかりでとても充実した時間を過ごすこ

とができた。休日は家族で出かけたり、友だちとツアーに申し込んで行ったりした。ホストファミリーは物知りで、たくさんのことを教えてくれた。

学校では、文法について学んだが、英語を話す機会もたくさん与えてくれた。先生に質問するときは必ず英語で話さなければならないという状態だったので、どうにかして英語で伝えるという面でとても鍛えられたと感じる。日本人のクラスメイトは、同じ日本であっても行ったことがない場所から来た人ばかりで、新しく知る事も多かった。

今回のプログラムにおける私の課題は、多方面で少し受け身であったことである。会話においては、聞き取ることに必死になってしまい、質問されても応答するだけで、あまり会話をつなげることができなかった。また気になることがあっても、きくことを躊躇したり、与えられたことをただこなしたりするだけの事が多かった。この原因の一つとして、自分の英語に自信がなかったことが挙げられる。私は日本では文法の正確性を重視していた。しかし、実際に英語で話すときに正確性を求めすぎて結局何も話すことができなければ意味がないということを、身をもって体験した。文法や発音などの英語力を高めることはもちろんだが、コミュニケーションの面からみた英語力ということに関しても、もう一度よく考えていきたいと考える。

ニュージーランドでの生活を通して、英語だけでなく、人間としてもスキルアップできたと感じる。異文化だけでなく、自分自身についての発見などがあり、とても有意義な三週間だった。この短期留学プログラムに参加できたことは私にとって重要な経験の一つであったと考える。今回短期留学をするにあたり、ニュージーランドで出会った方やたくさんの方の支援をいただいた関係者の皆様への感謝を忘れずに、学んだことを今後の大学生活や、将来社会で生かしていけるように努力していきたい。

佐々木琴音 (1518104)

・ what you did

これはニュージーランドに3週間滞在する留学プログラムである。ホームステイを通して英語に日々触れ、ネイティブな英会話を学んだり、リスニング力とスピーキング力を身につけたりすることができた。ワイカト大学では、初日にクラス分けテストを受けた。授業では、文法の定着を図り、リーディングやゲームを通して学んだ。

・ any good or bad points about the trip, the University Waikato, or your homestays

ホームステイによって、学校から帰っても英語に触れることが出来たので、だんだん英語に耳が慣れ、聞き取りやすくなった。ホストファミリーに自分の言いたいことや、ふと思った何気ないことも言えるようになった。日常的な英会話を学ぶことが出来た。それまで聞いた事のない表現や、ネイティブならではの口癖を学び、英語により興味を持った。常に英語に接し、自ら使うことによって、英語力を向上させることが出来た。

・ any other information that you think is important to tell Akita university

ニュージーランドはとても過ごしやすく、人も皆優しく、初めての海外で不安があったが、ニュージーランドに行くことができ良かったと思う。寄付金をくださった皆さんありがとうございます。海外留学をして英語力を高めたいと思いつつ、金額の負担も大きいため迷っていたが、援助していただけるということで踏み切ることが出来た。留学でしか得られない濃い経験が出来た。

人との繋がりも強く感じられた。これからも英語をもっと勉強していきたいと思えた。課題として感じたのは、英語の使用頻度である。クラスメイトはすべて日本人だったため、日本語での会話が可能だった。それに甘えず、クラスメイトとも英語で話すなど、留学でしか経験できない、すべて英語を使わなければいけない生活を経験するべきだったと思う。そしてそれを途中で感じたので、友達とルールを決め、家から学校までの間は英語だけで会話をしていた。また留学をしたいと考えているので、環境に甘えることなく、向上心をもって、取り組みたい。

平田明日美 (1518109)

・ what I did

平日はバスに乗ってホームステイ先から大学まで通い、授業を受けた。授業は全て英語で進められ、日本人学生たちも英語を用いて対応する事が基本だった。教科書をもとにはしているものの、教科書に沿った授業というよりもむしろコミュニケーション活動中心に行っている印象だった。休日は、大学で提供しているニュージーランドの観光ツアーに自分で申し込んで参加したり、大学でできた友人と旅行に出掛けるなどして過ごした。

・ good point

ワイカト大学の良かった点は、全国各地の大学から学生が集まってきており、専攻している分野・学部も様々であるため、問いかけられた質問への返答や意見が多種多様であらゆる角度から見た考えを英語で表現しており、普段英語教育の中でしか英語を学ばない私にとっては新鮮な経験だった。そして何より、担当の先生が素晴らしく、たくさん頭を使って考えながら英語を聞く・読む・書く・話すの4技能をフル活用する機会が多く与えられた。

・ bad point

文法事項の説明が高校生レベルのように感じた。既存の知識が多く、ニュージーランドに来てまでやる必要性はないように感じた。

・ any other information

一つ目は、他国の留学生や英語を母国語とする学生との関わりはほとんどないということである。私自身、もっと関わると予想していたが、そういった機会はなく、もっと関わりが欲しかったと思っているため、より多くの英語によるコミュニケーションの場を設けたいのであれば自分から何かアクションを起こさなければならないと思う。

二つ目は、バス代に予想以上のお金がかかったことである。バスカードや学生証の提示で多少割引は得られたものの、日本円からドルへの換金が足りないという事態が起きてしまったため、慎重に逆算する必要があると思う。

